

竹酢農法

竹酢液や竹炭を病虫害忌避と成長促進に利用する安全、安心の農法です。竹酢液のほか竹酢液ニンニクや竹酢液唐辛子、竹酢液激辛唐辛子、竹酢液どくだみ、竹酢液カルシウム(カキガラ)などを使用する。竹炭粒粉状は粉末と粒状が混ざったものである。土作りでは1反に対して50kgを使う。栽培時においては植物の株元に撒くことで地温が上昇することでダニ、アブラムシ、スリップス(あざみうま)などの害虫を忌避する。

バラの病虫害対策～竹酢農法

病気の主なものは、黒点病、ウドンコ病、枝枯病、ポトリチス病等です。病気は一度発生させると完治するのに時間がかかります。予防法としては定期的に竹酢液の灌水をして発病の予防に努めます。害虫に対しては竹酢液ニンニク激辛唐辛子や竹炭粒粉状を使用する。

灌水

1週間に1回、少なくとも10日に1回、竹酢液50～100倍液を使用する。

散布

- 1、竹酢液100倍液は1リットル／㎡を目安に使用する。
- 2、葉の裏に十分にかかるように心掛ける。
- 3、夜露、朝露で竹酢液が薄くなる。

病気の原因

植物が密集していると、風通し、日照が悪くなり、菌も繁殖しやすく、虫や病気が発生しても気づき辛いものです。バラにとって良い環境で育て、引き締まったよい株になると、葉の厚みも出て、病虫害に対し強くなります。株間を広くして栽培していると、病虫害に目が行き届きやすくなり、早期対策をとることができます。

1、黒点病～竹酢液

葉に黒褐色の斑点ができ徐々に葉が黄変し落葉します。下葉から木全体に広がり葉がなくなり木が弱り花も咲かなくなります。特に降雨の多い時に頻発します。

2、ウドンコ病 ～竹酢液

若い枝や葉、蕾や花首に発生しやすく、灰白色のウドン粉をふりかけた様な病斑がでます。4～7月と9～10月の湿度の高い夜の冷える時に多発します。風通しや施肥管理によっても、ある程度発症を押さえることができます。窒素が多くカリが不足気味な場合に発症しやすいので、バランスの良い施肥を心がけましょう。

3、枝枯病～竹酢液ニンニク激辛唐辛子

枝の切り口や傷口から菌が侵入し、表皮が白く乾いたようになり段々と広がり枝を枯らします。夏の高湿期、特に台風時、枝同士が触れ合い棘で傷つくことで菌が入り、発生しやすくなります。

4、灰色カビ病～竹酢液

開花前の大きくなった蕾に灰色のカビが発生する病気です。蕾はくさり開花しません。湿度が多いと発生しやすいので、梅雨時期等は特に注意が必要です。又、開花期に窒素肥料過多の場合も発生が多く、花の色では白色や淡色の、弁質のやわらかいものに発生が多く見られます。

5、アブラ虫～竹炭粒粉状の株元散布

緑色又は褐色をした小さい虫で新しい茎や葉から養分を吸収し、1年中発生します。

5、アカダニ～竹炭粒粉状の株元散布

6月頃から葉の表面がかさかさに乾いた様に変色します。とくに高温乾燥期に多発します。

6、カミキリ虫～竹酢液ニンニク激辛唐辛子

6月～7月に成虫が飛来し、バラの木、特に根元に産卵し、ふ化した幼虫は茎の内部を食害し、空洞を作り茎を一周すると上部は枯死します。

この虫は、木クズのようなフンを地上に出しますから、フンを見つけたら穴に針金を入れて幼虫を刺し殺すか竹酢液ニンニク激辛唐辛子を注入します。

7、バラクキバチ～竹酢液ニンニク激辛唐辛子

4月中旬から5月中旬に発生します。この時期に新芽の茎に産卵しますが、この時に茎の導管を切断するため急に新芽がしおれます。このハチは飛来して産卵しますので防除は大変困難です。被害茎には、縦に2mm位の黒い傷が有ります。そこに産卵していますからこの部分を除くように茎を切ります。

8、コガネムシ～竹酢液ニンニク激辛唐辛子

新芽の先(花や蕾)を飛来した成虫が食害し、土の中に産卵して孵化した幼虫が根を食害します。1鉢に2匹いると、葉が黄色く変色するほどで。枯れる場合もあります。

堆肥化とミミズ肥料

枝葉などはエコプランターに投入、竹酢液、竹炭、米ぬかなどを利用して堆肥化する。一次発酵終了後は縞ミミズを投入してミミズの糞をミミズ肥料として利用する。

エコプランター

2メートル角の深さ50センチの大型プランターで内容積2立方メートル。円柱を材料としているので校倉造りとなっている。堆肥作り、ミミズ肥料作りに利用する。